

組合に相談しよう
 不払い相談、融資・税金相談、教育資金、サラ金、生活保護、社保未加入問題…
練馬支部 03-3825-5522

けんせつ北部

定価三十円

購読料は組合費に含まれています。

発行所
 東京土建一般労働組合
 城北ブロック会議
 東京都豊島区西池袋5-22-15
 板橋 (3963) 5325
 練馬 (3825) 5522
 豊島 (3986) 2471
 北 (3902) 7121
 発行人 代表者 川合 正人
 発行日1日、9日、17日、25日



新役員を代表して福岡忠行委員長が挨拶 (4月2日・ココネリホール)

練馬支部第65回定期大会

信頼と結束を力に

組織強化とともに運動の実践を

4月2日(土)、練馬区産業プラザ・ココネリホールにて144人の参加で第65回支部定期大会を開催しました。今回もコロナ感染防止対策のため、分科会は開催せず本会議場で各専門部等の報告と提案を行いました。

私たちの要求実現にむけて

福岡忠行委員長による開会あいさつでは、ロシアのウクライナ侵攻をはじめ、相次ぐ物価高などの情勢にふれ、長引くコロナ禍での仲間の窮状を

4つの分会活動が基調報告を補強

池田直隆書記長による基調報告が行われたと、運動は分会ならではの組織強化活動とともに実践

私たちが要求実現にむけて

池田直隆書記長による基調報告が行われたと、運動は分会ならではの組織強化活動とともに実践

2022年度 練馬支部新役員 (敬称略)

支部執行委員長 福岡 忠行 (石神井)	支部副執行委員長 上原 誠 (早宮) 伊藤慶一郎 (新豊玉) 可兒 美憲 (大泉東) 上原 良子 (早宮) 肥野 信彦 (石神井台)	支部書記長 池田 直隆 (常駐)	支部書記次長 佐藤 大地 (常駐) 亀川 佑介 (常駐) 友成 京介 (常駐)	支部常任執行委員 磯野 進 (上石神井)	支部執行委員 藤井 清一 (旭町光が丘) 小玉 祥子 (春日) 畑澤 友美 (南事業所) 三角 真弓 (高松) 石田 靖尚 (豊玉) 柄澤 耕一 (大泉東) 加藤 忠 (西大泉) 和嶋 英人 (田柄) 赤松 雄太 (練馬/青年部長)	支部執行委員 井村 満 (南田中) 西川 利彦 (大泉東) 徳島智津代 (学園) 西川 忠大 (西大泉) 住友 光一 (石神井台) 丸山 進 (上石神井) 帥 孝司 (旭町光が丘) 豊原 孝仁 (石神井) 小岩比呂也 (関町) 佐藤 正三 (新大泉) 小谷 昭和 (早宮) 金澤 智 (中村) 奈良 正隆 (富士見台) 中込 祐 (新豊玉) 楊 洪芳 (北大泉) 中澤 裕美 (南事業所) (選出中) 泉、北事業所、谷原台	支部常任執行委員待遇 天野 一也 (旭町光が丘) 加藤 明 (西大泉) 春日三治子 (中村)	支部主婦の会会長 以上
-------------------------------	--	----------------------------	---	--------------------------------	--	---	--	-----------------------

▽ウクライナ侵攻をやめないロシア軍はチェルノブイリ原発に続き、3月4日、ヨーロッパで最大級と言われるザポロジエ原発を攻撃し占拠しました。原発攻撃実施という衝撃的な事態に対し、あらためて世界的軍縮の機運が高まるなか、唯一の戦争被爆国であり、福島第一原発事故を経験した日本の姿勢が問われています。しかしながら安倍晋三元首相や日本維新の会松井一郎代表による「核シェアリングについて議論すべき」との発言にみられるように、果たした軍拡や憲法改悪の動きを強めています。▽自国にアメリカの核兵器を配備する「核シェアリング」は、NATO加盟国のうち5か国が実施しています。約100発の核弾頭があるとされ、一度戦闘が始まれば先制攻撃の標的となる危険な状況を招きます。今こそ世界の舵取り役として平和と核廃絶への姿勢をしめすべき日本が、軍事による抑止に頼る判断を許すべきではありません。二度と建設職人の技術を戦争に利用させない精神のもと、私たちは平和と核廃絶を目指し運動を強めていきます。(渡)



▽ウクライナ侵攻をやめないロシア軍はチェルノブイリ原発に続き、3月4日、ヨーロッパで最大級と言われるザポロジエ原発を攻撃し占拠しました。原発攻撃実施という衝撃的な事態に対し、あらためて世界的軍縮の機運が高まるなか、唯一の戦争被爆国であり、福島第一原発事故を経験した日本の姿勢が問われています。しかしながら安倍晋三元首相や日本維新の会松井一郎代表による「核シェアリングについて議論すべき」との発言にみられるように、果たした軍拡や憲法改悪の動きを強めています。▽自国にアメリカの核兵器を配備する「核シェアリング」は、NATO加盟国のうち5か国が実施しています。約100発の核弾頭があるとされ、一度戦闘が始まれば先制攻撃の標的となる危険な状況を招きます。今こそ世界の舵取り役として平和と核廃絶への姿勢をしめすべき日本が、軍事による抑止に頼る判断を許すべきではありません。二度と建設職人の技術を戦争に利用させない精神のもと、私たちは平和と核廃絶を目指し運動を強めていきます。(渡)

東京土建一般労働組合練馬支部第65回定期大会は、前大会に引続き新型コロナウイルス感染症がもたらした規模・スピードで猛威をふるう困難な状況のなか、運動の到達を総括し、新たな運動方針を確立しました。

コロナ禍3年目、政府の対策は依然不十分です。医療は拡充どころか削減をすすめ事業者・労働者への支援も不足、検査・ワクチンも後手のままです。長きにわたる大企業・富裕層優遇と国民生活切捨て政策は、社会の矛盾を増大させました。

第65回定期大会 大会宣言

規雇用の増大、物価高、消費増税と免税事業者排除につながるインボイス導入、国民の生存権保障を放棄する社会保障連続改悪が、貧困の格差を広げ、国民を疲弊・困窮・不安の淵に立たせています。新自由主義の悪政がもたらした矛盾がコロナ禍で噴出するなか、その見直しの必要性は明らかです。

昨年10月の総選挙で私たちは仲間に投票を呼びかけました。岸田政権は「新しい資本主義」「新自由主義の転換」など、これまでの

政治との違いを演出しましたが、その政策に新自由主義からの脱却の兆しはまったく見られません。私たちは地域諸団体と連携し、賃金引上げと中小零細事業者支援、社会保障拡

政治との違いを演出しましたが、その政策に新自由主義からの脱却の兆しはまったく見られません。私たちは地域諸団体と連携し、賃金引上げと中小零細事業者支援、社会保障拡

対応して仕事と暮らしを守るとともに、その切実な要求を国・自治体・大手建設企業に突きつけ、現場実態の改善などの成果を勝ち取ってきました。13年に及ぶアセスメント訴訟のたたかいでは、5月17

日の最高裁判決で国と建材企業の責任基準が確定、首相が原告に謝罪し最高裁判決を超えざる基準の給付金制度を創設させる歴史的な前進を築きました。

また4月の区長選挙では、区民本位の区政を取り戻すため奮闘します。

集、民主的人が育つ明るい建設産業の実現、税と社会保障大改革の阻止、憲法と平和・民主主義を守り活かす諸運動に全力を挙げること、その組織的保障である組織づくりをすすめ、基礎組織である

私たちは本大会において、地域における多数派結集、民主的人が育つ明るい建設産業の実現、税と社会保障大改革の阻止、憲法と平和・民主主義を守り活かす諸運動に全力を挙げること、その組織的保障である組織づくりをすすめ、基礎組織である

2022年4月2日
東京土建一般労働組合練馬支部 第65回定期大会

3月6日、練馬支部会館にて第16回PALねりま総会を開催しました。本来であれば発足15周年を盛大に祝い予定でしたが、新型コロナウイルスの感染急拡大をうけ参加人数を絞って行いました。2021年度は前年からのコロナ禍が続き、現場交流会やレクレーションなどの開催が困難で、仲間からの現場情報取得が困難な状況でした。しかし、大手企業交渉の従事者会議で集まった情報を元に、現場休工に伴う休業補償を勝ち取るなど前進もありました。野丁場現場に従事する仲間を増やし、新年度もいっそう旺盛にPAL運動に取り組み現場改

善を図ろうと意思統一しました。

2022年度 PALねりま役員

○会長 小岩比呂也(関町分会)

○副会長 中山千里(田柄分会) ・ 金井茂雄(大泉分会) ・ 住友光一(石神井台分会) ・ 鎌田義昭(早宮分会) ・ 朝永孝志(新豊玉分会)

○幹事 菅野博孝(関町分会) ・ 志田行雄(泉分分会) ・ 齊藤晃一(中村分会)

○住宅部会部長 庄司隆昭(北大泉分会)

○住宅部会副部長 新井修(石神井分会)

今大会の改選で 退任された 支部役員(敬省略)

- 前 支部常任執行委員 大高 健次 (大泉東分会)
- 前 支部常任執行委員 石田 靖尚 (豊玉分会)
- 前 支部執行委員待遇 加藤 明 (西大泉分会)
- 前 会計監査 春日 三治子 (中村分会)



24人実増を勝ち取る 青年部大会

3月12日、練馬支部会館にて青年部大会を開催しました。コロナ禍2年目にあたる2021年度も引き続き感染防止を考慮しながら活動し、11月には屋外バスケット交流会を実施することができました。また、部員拡大では、資格を取得した青年

層へのチャレンジ助成金申請の声かけや、新たに加入した仲間に青年部のメリットを伝え24人の実増を勝ち取ることができました。新年度は活動家の育成に力を入れるとともに、全分会からの青年部員選出を目指して一致団結して取り組みます。

- 2022年度 青年部役員
- 青年部長 赤松雄太(練馬分会)
 - 副部長 佐々木幸裕(早宮分会) ・ 緒方竜成(新豊玉分会)
 - 書記長 赤松唯(練馬分会)

分会活動援助金の活用を 第20回 シニア友の会総会

3月20日、練馬支部会館でシニア友の会第20回総会を開催。支部シニア友の会役員と18分会から合計23人が参加しました。新型コロナウイルス感染拡大が続くなか2021年は支部段階での交流会などが実施できなかったことをふまへ、来年度の活動方針として、①従来の一泊旅行を比較的实现可能性の高い1日バス旅行に変更する、②分会シニア活動援助金(1人1000円、上限年間1万円まで)を活用した分会交流会を、人数は少なくても

機動的に開催する、③支部会館で行われる文化行事や平和の企画なども交流会の場として活用する、④2023年の結成20周年に向け記念行事等の企画を検討していくこと等を確認しました。総



分会・群の機能回復、再活性化で組織減少に歯止めをかけ、1%増勢を勝ち取る決意を新たにしました。

大会で選出された諸役員と大会参加者は大会方針の実践に向けて先頭に立って奮闘することを誓います。仲間のため、すべての仲間組合運動への参加と結集をよびかけて、大会宣言とします。

従事者会議の情報を元に運動が前進 第16回 PALねりま総会

3月6日、練馬支部会館にて第16回PALねりま総会を開催しました。本来であれば発足15周年を盛大に祝い予定でしたが、新型コロナウイルスの感染急拡大をうけ参加人数を絞って行いました。2021年度は前年からのコロナ禍が続き、現場交流会やレクレーションなどの開催が困難で、仲間からの現場情報取得が困難な状況でした。しかし、大手企業交渉の従事者会議で集まった情報を元に、現場休工に伴う休業補償を勝ち取るなど前進もありました。野丁場現場に従事する仲間を増やし、新年度もいっそう旺盛にPAL運動に取り組み現場改

名称変更と新役員選出 第55回練馬支部 主婦の会総会

3月12日、支部会館において第55回練馬支部主婦の会総会が63人の参加で開催されました。昨年度参加者の協力のもと成に引き続きコロナ感染症

た。総会では、「主婦の会」から「女性の会」への使用名称変更についての活発な議論の結果承認され、2022年度を新役員とともに新たな決意で切り拓こうと意思統一が図られました。

- 2022年度 女性の会役員
- 会長 神尾恵美(田柄分会)
 - 事務局長 住友かつ子(石神井台分会)
 - 副会長 金本亜麗(谷原台分会) ・ 新里恵美子(石神井台分会) ・ 荒川江利(大泉東分会) ・ 和田絵美(貫井分会)

4月17日練馬区長選挙

吉田健一さんの推薦を決定

東京十建練馬支部は4月17日に投票される練馬区長選挙に関して3月支部執行委員会において吉田健一さんを推薦決定しました。4月2日に開催した支部定期大会でもごあいさつをいただきましたので吉田区長実現にむけて奮闘していきます。

賃金確保にむけ 一致点を見い出す

組合の推薦決定については「吉田区長」が誕生した際に公契約条例制定が実現できるかどうかについて、東京十建と一致点を見出すことができましたので、3月4日に直接面談を行いました。

面談当日、吉田さんから「公契約条例のように特にコロナ禍の今こそ働く人の適正な賃金を確保するための制度を確立すべき」とのお話があり、練馬区が発注するあらゆる事業に従事する労働者の適正賃金確保に関する考え方について、東京十建と一致点を見出すことができました。また、支部定期大会でもごあいさつの中でも明言していただきました。

公契約条例以外の吉田健一さんが掲げる施策は次のとおり15項目に渡ります。

1. すべての子どもに公平な教育 「子どもは社会が育てる」
2. 安心して子育てできる環境整備 「きめ細やかなサポート」
3. 若い力を区政に生かす「若者が住みたい街をめざす」
4. 高齢者の不安解消 「高齢者の尊厳を守る」
5. 障がいのある人が地域で暮らすための支援 「当事者とともに」
6. 貧困対策 「本当に必要な支援を素早く」
7. 個人の尊重とジェンダー平等 「自分らしく生きていけるまちづくり」
8. 区民との対話重視 「当事者の目線に立ち、当事者の声を聴く」
9. インフラ整備は、ゼロから見直しを 「柔軟な発想ができる区政に」
10. みどりと農地を守る! 「気候危機宣言で、CO₂排出ゼロをめざす」
11. 先を見据えた医療・コロナ対策 「専門性・体制強化・情報公開」
12. 災害対策のアップデート 「時代にあわせた見直しを」
13. 基礎自治体の誇り 「東京都から権限(自治)を取り戻す」
14. 徹底的な情報公開 「民主主義の根幹『知る権利』を保障」
15. 行政の無駄遣いをなくす! 「コロナ後の10年を見据えた効率化」

「吉田健一オフィシャルサイト」



具体的な施策で弱者救済を掲げる



支部定期大会で挨拶をする吉田健一さん
(11月4日・コネリホール)

3月24日に開催された吉田健一さんの決起大会では、「政治は弱者のためでなければならぬ」と話されていましたが15の公約にもあるとおり、

子どもから若者、そして高齢者や生活に困窮する区民を全力で支えようとする強い意志が表れています。

また、「4000万円



組合と締結した政策協定を手に
(左・吉田健一さん 右・上原良子副委員長)

以上もする区長の退職金はいらない。その資金を使えば何年もフードバンク活動ができる。多くの困窮者支援が可能になる。「保育園は親が働くために子どもを預けるだ

けでなく親がストレスから解放され余暇を楽しむために預ける場所でもあるべき」「オンライン授業を充実して不登校の子どもが教育を受けられるようにする」といったよ

野党共闘そして 仲間の力の結集を

今回の区長選挙は昨年秋の衆議院選挙でも見られたように、市民と野党の共闘によってその力を結集させ、「区民が主役の区政に転換」させるためのたたかひとなつていま

康事業の規模縮小などにも見られるように、これ以上の暴走を食い止めることが組合の多くの仲間との生活にとっても重要になっていきます。

組合で吉田健一さんを推薦決定しましたが区長選挙の投票については個人

の自由を縛るものではないし、自由な意見交換をしながら区長選挙を迎えま



吉田さんの施策を目にする大会参加者

公選ハガキが郵送されますのでお仲間、ご家族、ご友人含めて呼びかけをお願いします。

